

キクの病害虫の発生状況（6月中下旬）

1 白さび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。育苗床からの持ち込みによる発生と思われます。本病は、キクの品種によって発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底してください。また、多湿条件が続くと発病しやすくなるので、これからの梅雨入りに備え、予防散布を心掛けてください。

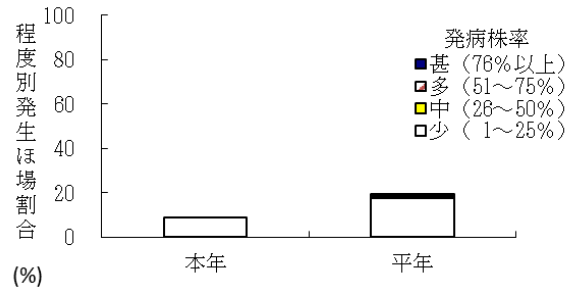


図1 白さび病の発生状況

2 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。ほ場をよく観察し、発生が多くなる前に、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

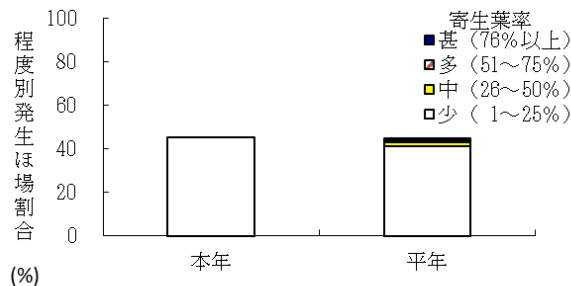


図2 アブラムシ類の発生状況

3 ハモグリバエ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図3）。寄生種は、ナモグリバエが主体で、夏季の高温期には発生が少なくなりますが、上位葉にも発生が見られる場合は、防除を実施してください。

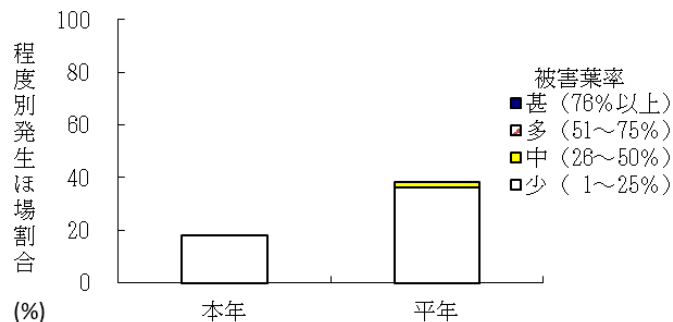


図3 ハモグリバエ類の発生状況

4 アザミウマ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。葉を強く加害するクロゲハナアザミウマの寄生を複数地点で確認しています。ほ場周囲の雑草が発生源となることが多いので、除草を徹底してください。発生種がミカンキイロアザミウマの場合は、効果の高い薬剤が少ないので、薬剤の選択に注意してください。また、本種は、TSWV等のウイルスを媒介するので注意が必要です。

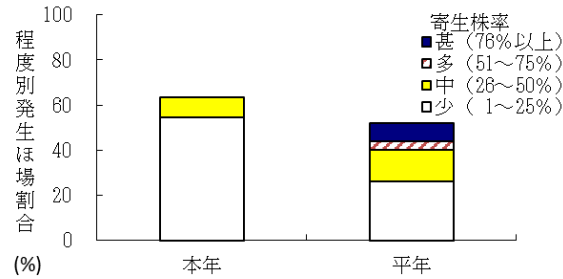


図4 アザミウマ類の発生状況

5 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。また、薬剤によっては、感受性が低下している可能性があります。薬剤防除を行った場合には、防除の2~3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

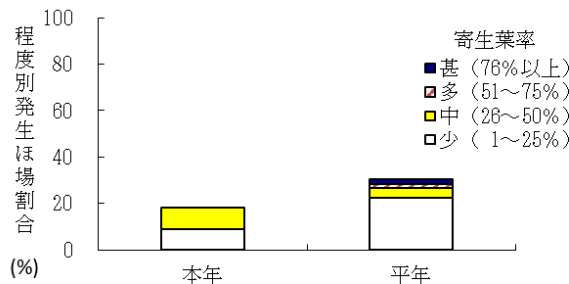


図5 ハダニ類の発生状況

6 オオタバコガ

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でしたが、発生時期が早い状況でした（図6）。フェロモントラップ調査では、伊達市での誘殺時期が早く、誘殺数は平年より多い状況でした（図7）。例年にない早い時期に被害が確認されており、今後次世代による被害の増加が懸念されることから6/26に注意報を発表しています。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

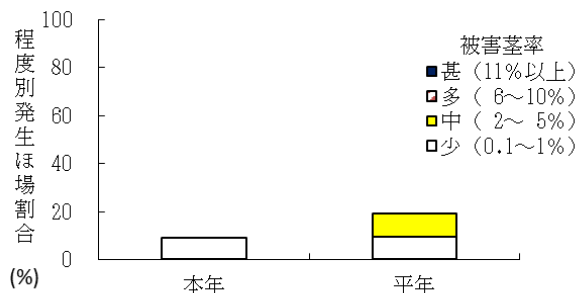


図6 タバコガ類の発生状況

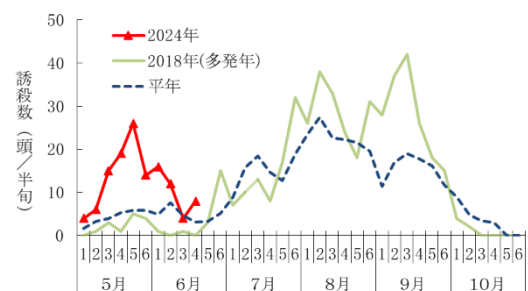


図7 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況 (伊達市保原町:キク)

- 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp